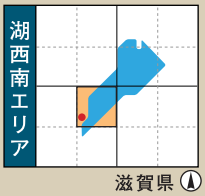
名勝
県指定

盛安寺庭園（せいあんじていえん）

大津市坂本本町　昭和56年4月24日指定



盛安寺は、崇福寺（学習シートNo.005）の旧蔵と伝えられる十一面観音を安置し、信長の山門焼き討ちで失われた本堂に替わり、伏見城から移された客殿が建つなど、歴史の流れにもまれながら法灯を今に伝えています。庭園は、盛安寺のたどった歴史を知らぬかのように、伸びやかにたたずんでいます。

当時のできごと	
1469年	雪舟、中国より帰国
1571年	毛利元就、北条氏康没す
1652年	若衆歌舞伎を禁止する

盛安寺について

盛安寺は瑞應山と号し、文明年間（1469～87）に越前朝倉貞景の家臣杉若盛安（すぎわかもりやす）が、西教寺の僧真盛に帰依し、廃寺を再興し、自分の名を寺名にしたものと伝えられます。元亀2年（1571）織田信長による延暦寺の焼き討ちの兵火に遭いますが、坂本城主明智光秀が再興します。しかし、再び兵火に遭い、慶安5年（1652）に再建され、この時に、伏見城の材を用いて客殿が造られます。庭園もこの頃に整備されたものと考えられます。

盛安寺は、穴太積と呼ばれる石垣で囲まれています。この石垣は、坂本周辺に豊富に産する花崗岩を用いた、石の自然な形状を活かした味わい深い石垣で、坂本の里坊（学習シートNo.077）にも多く用いられています。



客殿越しに見た庭園



盛安寺庭園　枯滝石組

盛安寺庭園

庭園は、客殿の上段、次の室の二部屋に南面する鑑賞式の枯山水庭園です。客殿の広い縁先から、南側に向かって、平坦地を経て築山を造り、築山上にツバキを中心とした生け垣を巡らします。築山の斜面は柔らかなスギゴケで覆われ、ツツジやサツキの刈込と多数の景石を自由に配しています。庭園の西には、高さが1m程の立石を中心とした枯滝石組を配して景とし、中央東寄りには三尊石風の石組を配してもう一方の景としています。縁先の中央には自然石による豪華な沓脱石を組み、ここから東門に向かって、リズミカルに飛石を打ちます。縁先からの眺めは明るく、石組と苔の調和のとれた味わい深い庭園です。



盛安寺庭園



盛安寺庭園



盛安寺外観（穴太積）

関連する文化財

盛安寺客殿（重文）	寺伝によれば慶安年間（1648～52）に伏見城の遺材を譲り受けて造営したものという。長谷川派の障壁画が残る
盛安寺木造十一面観音立像（重文）	盛安寺観音堂に伝えられてきた像。10世紀末頃の作と考えられる。崇福寺の旧像であったとの伝承も残る

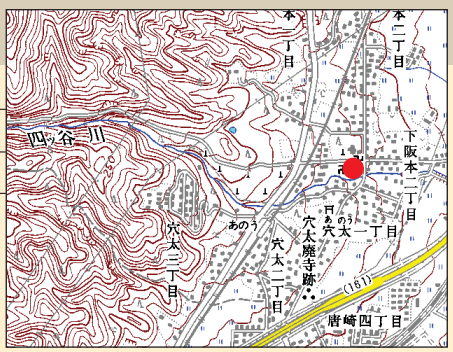
もっと深く知りたい

大津市歴史博物館	☎077-521-2100	大津市御陵町2-2
大津市教育委員会	☎077-528-2638	大津市御陵町3-1
琵琶湖文化館	☎077-522-8179	大津市打出浜1-1

※5月1日～5日のみ公開。それ以外は要問い合わせ

盛安寺庭園へのアクセス

JR湖西線　比叡山坂本駅下車
京阪電鉄石坂線　穴太駅下車



【参考文献】〔滋賀の美 庭〕京都新聞社　〔滋賀県の庭園1～3〕滋賀県教育委員会

滋賀県教育委員会事務局文化財保護課　平成16年3月